

東日本大震災復興関連事業チェックシート  
(平成23年度第3次補正予算)

(文部科学省)

<b>事業名</b>	大学等の研究資源・機能停滞を回避するシステム構築		<b>担当部局庁</b>	研究振興局		<b>作成責任者</b>	学術機関課長 澤川 和宏 ライフサイエンス課長 石井 康彦	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成23年度		<b>担当課室</b>	学術機関課 ライフサイエンス課				
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	IX-1 学術研究の振興 IX-3 科学技術振興のための基盤の強化				
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	国立大学法人法(平成15年法律第112号)第35条において準用する独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第46条及び独立行政法人理化学研究所法第16条		<b>関係する計画、通知等</b>	○第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日 閣議決定)				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	東日本大震災により、被災地の大学等において多くのバイオリソースが毀損・消失し現在においても危険な状態にさらされていることを踏まえ、被災地の大学におけるバイオリソースを用いた研究活動を支援するとともに、一度途絶えると二度と復元できないバイオリソースが今後災害が生じた際にも、毀損・消失することがないようにバックアップ体制を構築し、安定した研究環境の確保を図る。また、バイオリソースについて中核的な役割を担っている理化学研究所バイオリソースセンターにおいて、東日本大震災により基盤設備の脆弱性が明らかとなったことを踏まえ、引き続き、世界最高水準のリソースを提供し続けるためにも、基盤設備の整備を行い体制強化を図る。							
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	バイオリソース(約170万リソース)のバックアップに必要な冷却設備等を大学共同利用機関法人自然科学研究機構等に整備し、バックアップ拠点を構築することにより、被災地の大学等に保存されているバイオリソースを災害等から保護する。また、被災地大学へのバイオリソースの提供などの研究活動支援や理化学研究所バイオリソースセンターの給水設備、液体窒素製造設備等の基盤設備の整備を行う。 (補助率:定額)							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
<b>23年度予算額(単位:百万円)</b>	当初	第1次補正	第2次補正	第3次補正	計			
	—	—	—	1,075	1,075			
<b>成果目標(アウトカム)</b>	成果指標	単位	目標値		活動指標(アウトプット) <small>※上段( )書きは予算措置の果積に係る見込み</small>	活動指標	単位	23年度活動見込
			23年度	(年度)				
<b>単位当たりコスト</b>	— (円/—)		<b>算出根拠</b>	※各法人により整備する設備が異なるため、単純に単位当たりのコストを算出することはなじまない。				
<b>事業所管部局による点検</b>								
項目			内容					
「復興への提言」及び「東日本大震災からの復興の基本方針」で示された諸原則や施策の考え方の整合性がとられているか。			「提言」において、「減災」という考え方に基づいて財産を守る安全面に十分配慮する必要があり、そのためには防災拠点の整備等が必要とされていることに加え、「基本方針」においても、今後の災害への備えとして、「学校・試験研究機関の防災対策の推進や危機管理機能のバックアップを図る」ことが謳われており、整合性がとれている。					
被災地のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。			東日本大震災により、多くのバイオリソースが毀損・消失した被災地の大学等から早期のバックアップ体制の構築の要望が寄せられている。また、バイオリソースに係る中心的な機関である理化学研究所バイオリソースセンターでは、今回の震災による停電、断水等により、長期間にわたり業務停止する事態に陥り多くの研究者に影響が出たことから、早期の基盤設備の整備・体制の強化が必要である。					
効果的な事業であるか(より高い効果をあげる手法の選択、類似事業等との役割分担、客観的な将来見通しなど)。			バイオリソースのバックアップ拠点の構築により、生命科学分野をはじめとする様々な分野において安定した研究環境の確保に資するとともに、体系的なバックアップが可能となることから研究者の負担軽減、研究の効率化にも資する。					
費用対効果や効率性の検証が行われたか。			本事業は、バイオリソースについて中核的な役割を担っている大学共同利用機関法人自然科学研究機構等にバックアップ体制を一元的に整備するものであり、費用対効果及び効率性が高い。					
国、自治体、事業実施者、民間等の役割分担などのあり方は明確か。			本事業は、バイオリソースが生命科学分野をはじめとする様々な分野の研究に不可欠な研究資源であるとともに、我が国の発展の基盤となる財産でもあることを踏まえ、そのバックアップに必要な設備の整備等について、国が予算措置をし事業実施者によって遂行されるものであり、役割分担は明確である。					
他の事業と整合的で、計画的に実施されるものとなっているか。			生命科学分野をはじめとする様々な分野の研究に不可欠なバイオリソースのバックアップ体制を構築することにより、安定した研究環境の確保を図る本事業は、関連分野を支える事業として位置づけられるため、関連分野と整合した計画的な事業である。					
事業の迅速な着手・執行が可能であるか。事業の執行などの透明性が確保され、進行管理が適切に行われるようになっているか。			中核的な拠点で行うことにより、事業の迅速な着手・執行が可能である。また、本事業の設備整備にあたっては、原則一般競争入札により行うため、執行などの透明性は確保されている。					